

関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

関西学院大学災害復興制度研究所フォーラム 「関東大震災から100年 人間復興の現在地は ～災害多発時代、福田徳三の理念は生かされているのか？」のご案内

報道各位

関西学院広報室

関西学院大学災害復興制度研究所は、阪神・淡路大震災から10年の節目である2005年に誕生し、被災地の大学としての社会的責任から、「人間復興」の理念のもと、被災者の生活の再建・再生を中心的なテーマとし研究を行ってきました。このたび、「人間復興」の真髄について語り合うフォーラム「関東大震災から100年 人間復興の現在地は ～災害多発時代、福田徳三の理念は生かされているのか？」を8月31日（木）に開催しますのでご案内いたします。

■日時：2023年8月31日（木）午前10時開始

■内容：開会挨拶 山泰幸（関西学院大学災害復興制度研究所所長）

趣旨説明 山中茂樹（関西学院大学災害復興制度研究所顧問）

基調講演「福田徳三と人間復興の経済思想」 西沢保（一橋大学名誉教授）

対論「人間復興の現在地」 井上琢智（関西学院大学元学長）

山中茂樹（関西学院大学災害復興制度研究所顧問）

■趣旨：

「人間の復興」とは、関東大震災の折、生存権擁護を第1に掲げた福祉国家論の先駆者、福田徳三の唱えた思想だが、「大地の震動」による帝都の崩壊だけで社会が変革されるわけでもなく、朝鮮人、社会主義者、労働組合の活動家らの虐殺、続く治安維持法の制定という国家主義の巻き返しによって、福田らの理念・思想を支えた大正デモクラシーは突如、終焉を告げ、「震災で素っ裸になった被災者らによって新東京を建設する」という「人間復興の野心」も潰えた。

「最後の一人まで見捨てない」とは、被災地 KOBE の NGO たちが唱えたスローガンだ。福田の唱えた「人間復興」の理念を現代的にアレンジし、被災地 KOBE に代表される被災者たちの想いを実現可能な制度・システムとして構築していくことを目的に当研究所は阪神・淡路大震災から10年の2005年に創設された。わずか10年余りのパラレルワールドとして歴史から消え去った「大正デモクラシー」の轍を踏まないよう、私たちは、まず民主社会の基礎を固め、福田の理念を継承していくことを今一度、確認しようではないか。

■【報道関係の方専用】参加申込フォーム：

8月30日（水）12時までに、以下のURLもしくはQRコードよりお申し込みください。

※本フォームからは一般の方の申込はできません。

<https://forms.office.com/r/MeXEEpti7s>

本件に関するお問い合わせ先：学校法人関西学院 広報室 企画広報課（担当：和田）
兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 〒662-8501 TEL. 0798-54-6873 Fax. 0798-51-0912